

【大学・専攻等名】

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、東南アジア研究所

【事業名】

地域研究のためのフィールド活用型現地語教育

【事業概要】

目標 1. 地域の全体像に迫り解明するために必要な現地語の習得

目標 2. 地域研究の成果を国際的に発信する力の強化

「現地に行けばしゃべれるようになる」という場当たりのな語学習得法か、フィールドワークの即戦力とならない教室語学、そのいずれかしか教授してこなかった、大学院語学教育の旧態を打破し、**地域研究に真に役立つ語学教育の提供**を目指す。そのために、若手研究者を、各々の研究分野に最もふさわしい現地研究機関に派遣し、専門性の高い語学トレーニングを受けさせる。

特徴 1. academic language (広範囲で共通語として通用する学術語) と vernacular language (現地の地方言語) : 地域研究においては、政治・経済、歴史や神学等、文字文化に基礎を置く

側面から、民衆信仰や生態・農業等、文字文化と直接的な関係を持たない側面までに広がる場の全体を理解する必要がある。前者の理解には academic language、後者の理解には vernacular language に通じる必要があり、地域文化の上流から下流までの全体を理解する点からは、いずれも劣らず重要である。このいずれにも対応しうる語学教育が、本事業の現地語教育である。

特徴 2. インプット・レベルからアウトプット・レベルまでをカバーする教育体制 : 前者については、とくに博士前期課程相当の最も若い研究者の情報インプットに最大の便宜を図るべく、現地語習得のためのフィールド派遣を柱の一つとする。分野によっては、博士後期課程の学生もこのインプット・レベルの教育支援の対象となる。後者については、情報インプット能力がすでに相当程度開発されている博士後期課程・ポスドクから助教レベルを主たる対象に、国際社会への発信に必要なアウトプット能力を強化する。**英語のみならず、フランス語およびアラビア語等の現地語をもアウトプット・レベルの対象**とする。

【海外パートナー機関の名前・専攻等名及び所在地】

ハサスディン大学 文学部日本語学科・インドネシア語学科 <インドネシア・マカッサル>

タマサート大学 総長室国際交流担当 <タイ・バンコク>

ラオス国立大学 学長室国際交流担当 <ラオス・ヴィエンチャン>

ペラデニヤ大学 文学部 <スリランカ・ペラデニヤ>

カイロ大学 アジア学研究所 <エジプト・カイロ>

アジスアベバ大学 社会科学部 <エチオピア・アジスアベバ>

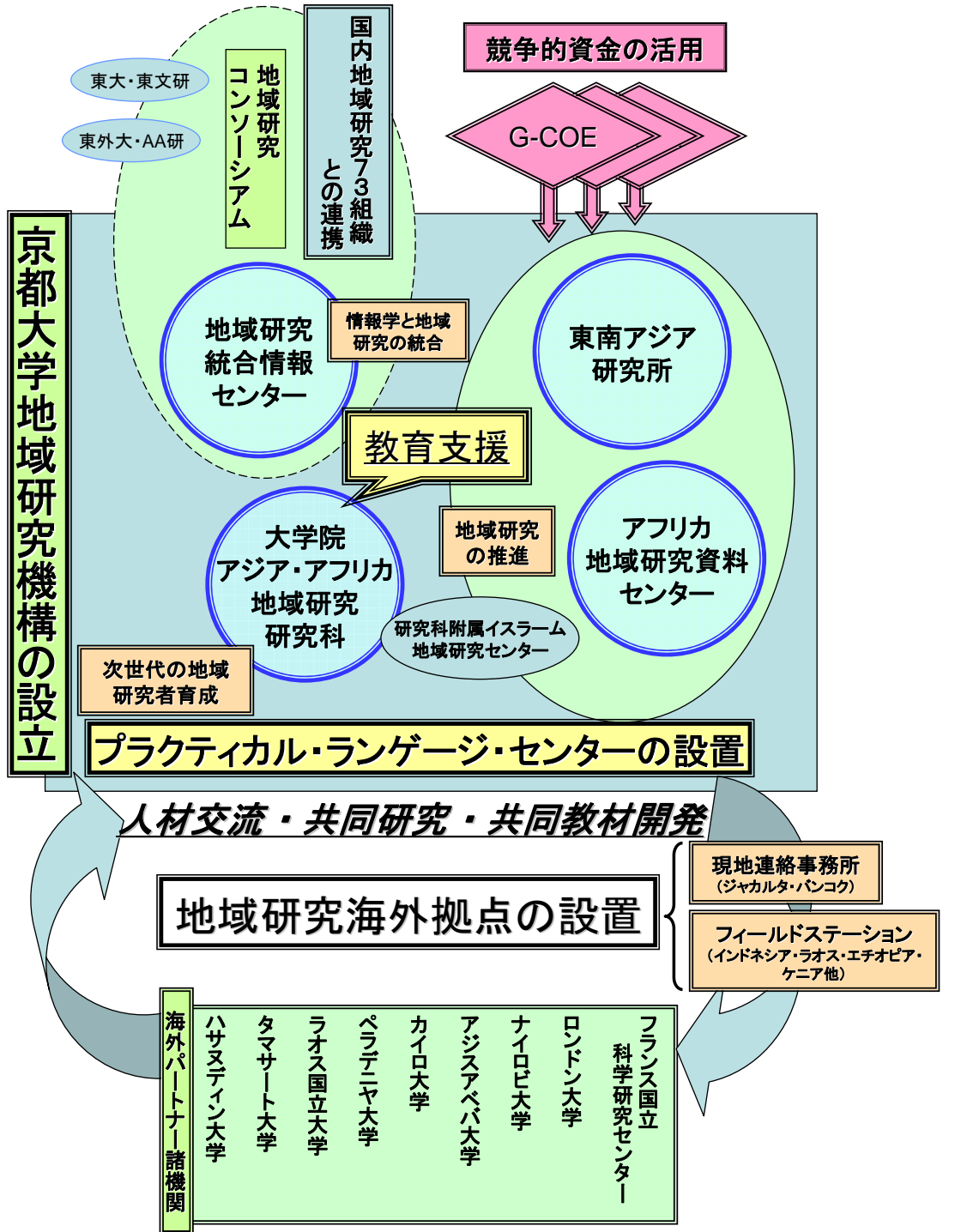
ナイロビ大学 アフリカ研究所 <ケニア・ナイロビ>

ロンドン大学 東洋アフリカ研究所 <イギリス・ロンドン>

フランス国立科学研究センター <フランス・パリ>

【事業の概念図】

申請書に記載した将来構想の概念図などで対応可。



【本事業に関する問い合わせ先】

京都大学国際部国際交流課・対外政策グループ(専門職員)・南雲 円

電話: 075-753-2048 ファックス: 075-753-2042 e-mail: i-coop850@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp